

令和6年10月25日

令和6年度病害虫発生予察特殊報（第3号）

和歌山県農作物病害虫防除所

1. 病害虫名：ミナミトゲヘリカメムシ *Paradasynus spinosus* Hsiao
2. 作物名：カンキツ、カキ
3. 発生地域：日高郡由良町（カンキツ）、紀の川市（カキ）
4. 発生確認の経過および県内外での発生状況

令和6年9月、由良町のウンシュウミカンほ場において写真8のカメムシが多数発生する状況が確認された。このカメムシは果実を吸汁しており、加害された果実では異常着色や落果が確認された（写真1、2）。健全なウンシュウミカン果実に捕獲した本虫を放虫したところ、現地と同様の被害が再現された（写真3）。そこで、和歌山県立自然博物館に同定を依頼したところ、ミナミトゲヘリカメムシであることが確認された。また、令和6年6月、紀の川市のカキほ場において本虫と思われるカメムシによる「平核無」、「富有」の幼果への加害が確認されていた（写真4、5、6）。

本虫は南方系のカメムシで沖縄県ではシークワサーの主要害虫であるが、近年分布を北上させており、九州では昭和48年以降、鹿児島県、佐賀県、福岡県、長崎県で、九州・沖縄地方以外では平成17年に三重県、令和5年に愛媛県でカンキツやカキ果実への加害が報告されている。

5. 本種の特徴

1) 形態

体長 16~23mm の細長い大型のカメムシで、オオクモヘリカメムシに似る。前胸部の側角が鋭くとがり（写真8の円内）、背面は褐色、腹面は淡黄緑色である。

2) 生態

詳しい生態は不明だが、沖縄県のカンキツでの発生ピークは年間2回である。

3) 寄主植物

栽培作物以外での寄主植物はシロモジ、クスノキ等のクスノキ科植物である。

4) 被害

ウンシュウミカンでは、他の果樹カメムシ類と同様、果実が異常着色、落果し（写真2、3）、被害果実には口針鞘が確認される。果皮に近い果肉部にす上がりのような症状が発生する（写真7）。

カキでは、果頂部に被害が集中することが特徴である（写真4）。加害された幼果はその部位が黒褐色となり落果する。被害部位がえぐれたように深く凹む場合も

ある（写真5、6）。

他県ではスモモ、アボカドへの加害も報告されている。

## 6. 防除対策

本種の発生が確認された場合、カメムシ類に適用のある薬剤を用いて防除を行う。



写真1 ウンシュウミカン果実を加害する成虫



写真2 落果したウンシュウミカン果実



写真3 異常着色したウンシュウミカンの果実と落果痕（矢印）

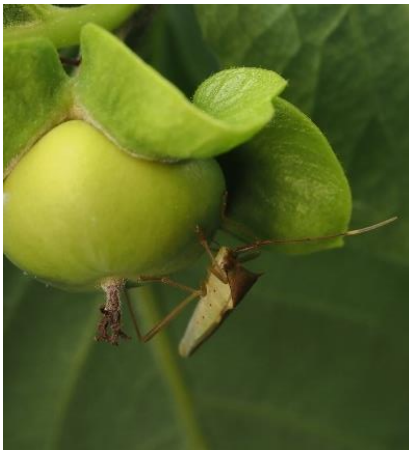


写真4 カキ果頂部を加害する成虫



写真5 被害部が褐変したカキ「平核無」の幼果



写真6 落果したカキ「富有」の幼果

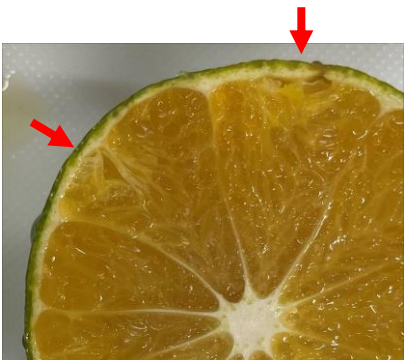
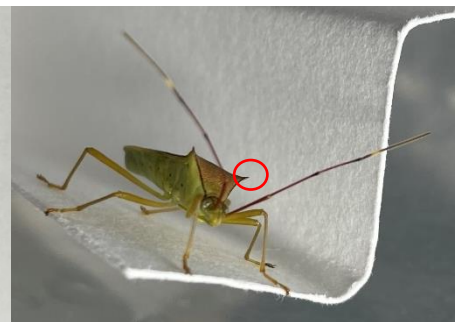


写真7 ウンシュウミカン被害果実のす上がりのような症状



写真8 ミナミトゲヘリカメムシ成虫の形態



和歌山県農作物病虫害防除所

有田川駐在（電話：0737-52-4320）

紀の川駐在（電話：0736-73-2274）